新たなガザへの自由の船団：知っておくべきすべてのこと

パレスチナ・クロニクル編集部、２０２６年9月5日、脇浜義明訳

イスラエル海軍が、クレタ島沖でガザ行きの船団を拿捕する動きを見せた。(Photo: video grab, file)

グローバル・スムード船団はガザ回廊への新たな海上作戦を発表した。自由の船団はヨーロッパ港を経由してガザへ向かう。

主な展開

・自由の船団はスペイン、ポルトガル、イタリアの港を訪問し情宣活動を行い、その後１０月にガザに向かって出発する。

・自由の船団主催者は、このミッションの目的はイスラエルのガザ封鎖に挑戦し、ヨーロッパ全土からの人民的圧力を動員することだと説明した。

・主催者はヨーロッパ各国の政府に自由の船団の安全な航行を保証し、イスラエルのガザ封鎖に反対して外交的、経済的、法的手段を講じることを呼びかけた。

自由の船団連合（FFC)は今回のミッション発表のとき、「イスラエルがジェノサイドをやめず、パレスチナは依然として自由でないために、我々は再び航海に出る」と述べた。

航海はもう始まっている。FFC の船舶「ハンダラ II」は6月と７月にノルウェー、スウェーデン、デンマークの港に寄港し、「ケイト」は８月に英国のブリストルを出港し、アイルランド、ドイツ、フランスに寄港した。この両船はスペイン、ポルトガル、イタリアに寄港して情宣活動を行ってから、１０月にガザへ向かう予定である。

ヨーロッパ寄港キャンペーン

＊寄港した港では、FFC は地元の団体と協力し、イスラエルの武器・エネルギー輸送の阻止、イスラエルとの外交・軍事協力の停止、イスラエルへの制裁を政府に求める圧力をかける運動を行う。

「私たち自由の船団が出航するのは、どの政府も義務を果たそうとしないからです」と、FFC 運営委員会のゾハル・チェンバレン・レゲフが言った。さらに彼女は「どの港でも、私たちはパレスチナ人が人間的尊厳をもって自由に生きられるようにしようと呼びかけます。そして、１０月には、この呼びかけの声と世界の人民の連帯をガザの海岸に届けます」と付言した。

FFC 連合は、ヨーロッパ各港への寄港では、集会、メディア向けイベント、船舶への招待などの行事を企画していると述べた。

安全な航行を求める

＊FFC は各国政府に対し、船舶が妨害されずに安全に航行出来るよう配慮することを求め、船団参加者への攻撃、拿捕、拘束は重大な結果を招くという態度を明確に声明することを求めた。また、ガザ回廊への即時で無制限なアクセスを保障すること、ガザ回廊への食料、水、医薬品、その他の生活必需品の搬入の制限をやめることをイスラエルに求める声明を出した。ＦＦＣは、ヨーロッパの国々の政府に、外交、経済、法的手段を使ってイスラエルのガザ封鎖に反対し、航行の自由を守るように強く求めた。

「ガザへの航海には重大なリスクがあることは承知しています」と、このミッションに参加している米国メリーランド州のエンジニアのエドワード・ディジリオが言った。「しかし、沈黙と何もしないことは、パレスチナ人と世界にとって大きな代償を伴います」と述べ、このミッションを「人間性の普遍性を示すもので、一つの民族の破壊を平然と受け入れることを断固拒否することを表明するもの」と表現した。

過去の自由の船団

今回の自由の船団は過去の自由の船団の続きである。今年初めの船団活動に参加した数百人はイスラエル軍に拘束された。彼らは拘留中に殴られたり、スタンガンによる電気ショックや性的暴行を受けたと報告している。アムネスティ・インターナショナルは、イスラエル軍は船団の船舶を公海上で拿捕し、拘留した活動家の睡眠剥奪、水や医療の拒否、その他の虐待行為を行ったことを記録している。

ＦＦＣ連合は、２００８年にフリー・ガザ運動が開始した活動を引き継いで、２０１０年から封鎖に挑戦する海上作戦を行った。２０１０年5月、ガザに向かうマヴィ・マルマラ号がイスラエル軍から襲撃され、活動家１０人が死亡した。

今回の１０月ミッションでは、海上封鎖に挑戦する活動を継続するとともに、ヨーロッパ各地の港に寄港して世論と政治的支持を構築していくという。

ガザ・ジェノサイド

今回の自由の船団による救援物資運搬は、イスラエルのガザ・ジェノサイドが始まって約３年が経過したなかで行われる。ガザ回廊では、住民が今もなお避難生活、破壊、人道支援へのアクセス妨害を受けている。２０２５年１０月に停戦が発効したにもかかわらず、イスラエル軍はほぼ毎日ガザ回廊各地を攻撃している。昨日の９月４日、国連人権高等弁務官事務所は、８月２８日から９月１日の間に子ども４人と女性１人を含むパレスチナ人２４人がイスラエル軍に殺害されたと発表した。

国連人道問題調整事務所（OCHA)によると、ガザの人口約２１０万人の大半が避難生活者で、継続する空爆が民間人死傷者と民間インフラの破壊をもたらしている。

国連は、イスラエルがガザ回廊の６０％以上を占領、いわゆる「オレンジ・ライン」及び「イエローライン」で囲んで、ガザのパレスチナ人の立ち入りを制限しているため、パレスチナ人の大半がガザ回廊の４０％以下の範囲に押し込まれてると発表した。また、人道支援団体は、ガザへの不可欠な物資の搬入を制限され、救援が必要な場所へのアクセスを禁止されている。

OCHA は8月下旬、ガザ回廊の人口の９４％にあたる１９８万人のパレスチナ人がシェルター支援や生活必需品を必要としており、そのうち５８％がテントなど寝る場所を緊急的に必要としていると報告した。